



## てんた里山基金

1895年にイギリスで始まったナショナル・トラスト。それは一人ひとりが寄付金を出しあって土地を買い取ることによって、大切な自然を未来に引き継いでゆこうとする市民運動です。

飯能にほど近い狭山丘陵では、「トトロのふるさと基金」としてナショナル・トラスト運動が行われていて、1号地～6号地と保全地を買い取っています。小さな点としての市民トラスト運動ですが、これを契機として行政による周辺の土地買い取りが進められ、大きな面としての保全が図られてきています。

天覧山・多峯主山（天多＝てんた）周辺の自然豊かな里山の環境を未来に確実に引き継いでゆくために、市民の小さな力をたくさん集め、大きな力へと変える天覧山・多峯主山ナショナル・トラスト運動として「てんた里山基金」を設立しました。

現在「てんた里山基金」では、天覧山北東側の東やつと呼ばれる休耕田の一画の買い取りを目ざしています。小さな点かもしれませんが、小さな一歩から一緒に始めませんか。



寄付金の額 個人、団体共 1口1000円(1口以上)



送金方法

指定の郵便振替用紙に必要事項を書込みの上、お振込み下さい。指定の郵便振替用紙がない場合「てんた里山基金への寄付」とご記入の上、下記へお振込み下さい。

郵便振替口座 0058-9-16342

「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」



基金の使途

「てんた里山基金」に集められた基金は、天覧山・多峯主山周辺の里山環境保全に関わる土地の買い取り、及びその維持管理に充てられます。

## 奥武蔵の山々を一望！ 「奥武蔵鳥瞰図」好評販売中!!

パノラマ風景画家、友利宇景氏制作による「奥武蔵鳥瞰図」ができました。名栗湖を通って飯能市内を流れる名栗川と、巾着田に注ぐ高麗川の流れに挟まれて秩父へと続く山々が、飯能上空から一望するように描かれています。飯能の街のようすや、歩いた山の位置などをもう一度確かめてみませんか。

1枚 1000円

B2版(タテ728mm×ヨコ515mm)

\* 収益金はすべて当会の自然環境保全のための活動資金に充てられます。

飯能市内の「めいわどう(Tel.042-972-2010)」「宮脇書店(Tel.042-973-8254)」などで販売しています。郵送ご希望の方は10枚まで送料800円でお送りします。郵便振替での入金確認次第発送します。

専用の振替用紙または里山基金と同じ振込先へ「鳥瞰図何枚希望」と明記の上ご送金ください。

\* 鳥瞰図のお問い合わせはこちらまで\*  
Tel.042-972-0307 久下(くげ)

活動を支えてくださる会員を募集しています。

年会費●正会員／普通会员2,000円・特別会員10,000円

●賛助会員／一口10,000円

郵便振替用紙に会員の種別をご記入の上、里山基金と同じ郵便振替口座にお振込み下さい。会員の皆様には会報を送付いたします。

NPO法人 てんた:の会

てんらんざん どうのすやま  
(天覧山・多峯主山の自然を守る会)

事務局◎Tel.042-974-1691 浅野正敏

〒357-0035 埼玉県飯能市柳町18-17

URL=<http://www.tenranzan.com/>  
E-mail=tenta@tenranzan.com



天覧山周辺の  
里山ナショナルトラスト

# てんたの 里山基金



NPO法人  
てんた:の会

てんらんざん どうのすやま  
(天覧山・多峯主山の自然を守る会)

# 自然 天覧山・多峰主山の



埼玉県飯能市は、首都圏50Kmに位置し、都心より約1時間で来られる場所にあつて、緑と清流に恵まれた歴史のあるまちです。

飯能市街地周辺は、秩父山系の山地から関東平野へと移る境目にあり、丘陵地が広がっています。里山と呼ばれるこうした場所は、雑木の森として、ひと昔前までは、堆肥用の落ち葉やエネルギー用の薪、炭にと生産の中で利用されてきました。近年、化石燃料時代となり、里山の自然が生活に密着していた時代から、山を切り崩して使う時代へと移行してゆく中、飯能市周辺の丘陵地だけでも1000haにおよぶ森がゴルフ場や団地住宅などの開発により消滅してしまいました。

天覧山・多峰主山周辺も幾度となく開発の危機にさらされてきました。その度に「この森は飯能のシンボルとして永遠に残して行きたい」という市民の熱き想いが湧き上がり、脈々と流れるこの意志は保全に向けた果敢な市民運動となりました。そうした行動が成果を生み、2005年1月、ついに分譲地開発計画は中止が決まり、現在は市街化調整区域へと戻っています。こうして、天覧山・多峰主山周辺の自然豊かな環境は現在まで残されています。

緑の中に佇むタマムシ



ホンドリス

2001年、専門家を交えた市民ボランティアによってまとめられた「<sup>てんらんざん どうのすやま</sup>天覧山・多峰主山自然環境調査報告書」によれば、植物は723種、鳥類52種、トンボ54種、蝶55種、クモ187種等々多様な動植物が確認されています。およそ40年前まで耕作されていた水田の跡が、4本の谷津として湿地を形成しており、ヨシ、ガマ、チゴザサなどが生育しています。このように人の手が入らなくなった湿地では、生育する植物が移り変わってゆき、徐々に乾燥化が進んでいます。多様な生態系を維持してゆくには、水田のような水辺のある風景に戻す必要があると私たちは考えています。



夏の初め、この谷津にはゲンジボタルとヘイケボタルが闇夜を乱舞します。

しかし、年々その数が減少しているのではないかと心配しています。私たちは、ホ



ジョウビタキ



ナガコガネグモ



ヤマアカガエルの産卵



希少種植物ムカゴニンジ



ミヤマアカネ



蟻の穴から顔を覗かせるムササビ

タルだけ増やそうということではなく、湿地を再生することによって、トンボや蝶、その他の多くの昆虫が生息できる環境づくりを行ってゆこうと思います。そうすることによって、たくさんの野鳥などの小動物が集まり、その生態系の頂点に立つ希少なオオタカなどの猛禽類も、将来にわたり棲息可能な場所となるのです。現に、今なおキツネやタヌキやイノシシ、ムササビ、ホンドリス、テンといった哺乳動物も棲息しています。里山という人の手が入った自然に多様な生態系が保たれています。このような環境が身近にあるということは、とても幸福であると思いませんか？

バッコヤナギとコツバメ(蝶)

今、こうした自然にふれることのできる私たちは未来の子どもたちにも同じ幸福を味わえるように手立てしてゆかなければならない責任を持っているのです。

